

寿

2019年 年頭のごあいさつ

皆様、明けましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、本町出身の力士・白鷹山関の十両昇進や、白鷹中学校サッカー部及び陸上競技部の全国大会出場など、スポーツ面において大変喜ばしい話題が多い一年でありました。そのような状況の中、東京五輪に向けた取組みといたしまして、本町がソフトボール競技における中国チームのホストタウンとして登録が認められたことも、地域に活気をもたらす出来事の一つであると捉えております。同国選手団の誘致やオリンピックとの交流など、本事業をきっかけに、特にジュニア世代を中心に中国との将来にわたる交流やスポーツの振興、教育文化の向上を図ってまいりたいと考えております。

また、日本全体が人口減少に向かう現状において、広域で定住の受け皿形成を目指すべく、昨年6月に米沢市と置賜2市5町との間で「置賜定住自立圏形成協定」を締結いたしました。特に、加速する少子高齢化に歯止めをかける力ギとなる若い世代の定住には、働く場所とともに暮らしやすい環境

の整備が望まれることから、本町も各市町と役割を分担し、置賜圏域全体で連携・協力した具体的な取組みを進めてまいります。

さて、本年は現在工事を進めている「まちづくり複合施設」が5月にオープンする予定です。町産材をふんだんに使用する当施設には、中央公民館、図書館、防災センター及び役場庁舎機能に加え、町民の皆様が気軽に利用できるラウンジなど多様な機能が備わることから、住民間の交流や、まちのにぎわいを創出する新たな空間になるものと期待しております。

そして、第5次白鷹町総合計画後期基本計画の最終年度となる本年は、これまでの町の取組みの成果を検証し、計画の総仕上げを行なってまいります。さらに、将来にわたり人と地域が生き生きと活躍していけるまちを目指し、町民の皆様の声幅広くお聞きしながら次期総合計画の策定を進めることとしており、気持ちも新たに住みよいまちづくりを推進してまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして健やかで実り多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

新

年明けましておめでとうございます。町民の皆様にはすばらしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろより議会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も、全国各地で集中豪雨や台風、大地震など相次いで大きな被害に見舞われました。本町では、猛暑により一部田畑で渇水の被害はありましたが、幸いにも人命に関わるような大きな災害等は無く、安堵しているところです。

さて、人口減少・少子高齢化が進行する中、本町では第5次白鷹町総合計画後期基本計画の総まとめの時期を迎え、日本の紅（あか）をつくる町推進事業など特色ある各種施策とともに人口減少緊急対策プロジェクトの取組みを行なっております。

しかし、出生数を見ても分かるように、少子化・人口減少に歯止めがかからない状況にあり、今後のまちづくりに係わる喫緊の課題となっております。

全国どこの自治体でも同じ課題を抱え、連携し、広域対応していかなければならない部分もあると

感じております。そこで議会といたしましては、二元代表制の意義を踏まえ、チェック機能の強化と、多様な提言が必要であると考えております。

そのような中、今般、「人口減少対策」「安全・安心で住みよいまちづくり」「白鷹町の活性化」の3項目にわたる政策提言を議会の総意としてまとめ、町長に提出したところです。

また、議会の運営等についても議会活性化特別委員会で検討し、「開かれた議会」づくりに努めております。そして、今年4月には改選を迎え、定数を2名削減し12名となります。

今後、二元代表制の下、議会の情報公開を進め、議員のなり手の確保を含め町民の皆様が町政に参画しやすい環境づくりに取組み、安心して住み続けられるまちづくりに邁進（まいしん）してまいりますので、なお二層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様方のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

「町民が安心して住み続けられるまちづくりに邁進」

白鷹町議会議長 遠藤 幸一

「人と地域が生き生きと活躍していけるまちを目指し」

白鷹町長 佐藤 誠七